

中央教育審議会諮問（平成26年7月29日）に関する説明概要

○下村博文文部科学大臣

「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方について」であります。学校教育の成否は、教員の資質能力に負うところが大きく、これからの時代に求められる学校教育を実現するためには、教員の資質能力の向上とともに、教員が専門性を発揮できる環境を整備することが求められております。

これからの教育を担う教員には、例えば課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業を通じて、これからの時代に求められる力を子供たちに確実に身に付けさせることができる指導力が求められます。

一方、中学校等の教員を対象としたOECDの国際教員指導環境調査、この結果からは、主体的な学びを引き出すことに対する教員の自信の我が国における低さ、また我が国においては教員の勤務時間が最も長いなど、我が国の教員をめぐる様々な課題も明らかになりました。

また、学校間の連携や一貫教育、小学校における教科指導の専門性の向上等を推進し、柔軟かつ効果的な教育を行う観点から、教員が学校種を越えて指導ができることも求められております。

このため、教育再生実行会議の第五次提言においても、教員免許制度を改革するとともに、社会から尊敬され学び続ける質の高い教員を確保するため、養成や採用、研修等の在り方の見直しが提言されております。

加えて、教員の専門性にふさわしい勤務や処遇等の在り方について検討を行うとともに、教員としての専門性や職務を捉え直し、学校内における教職員の役割分担や連携の在り方を見直し改善し、教員とは異なる専門性や経験を有する専門的スタッフを学校に配置し、学校組織全体が一つのチームとして力を発揮することが求められる時代になりました。

これらの観点から、これからの教育を担う教員の資質能力と学校組織全体

の組織力を高めるための方策について包括的に諮問を行うものであり、具体的には次の事項について中心に御審議を行っていただきたいと思っております。

その第一は、教員が必要な資質能力を身に付けることができるようにするため、教員養成・採用・研修の接続を重視して見直すための方策について御検討をお願いいたします。その際、主体的・協働的に学ぶ授業を展開できる指導力、教科等横断的な視野を持って指導できる力、小中一貫教育など学校種を越えて指導できる力や、小学校における教科指導の専門性などを身に付けさせる観点からの教員免許制度の見直し、採用の前又は後に学校現場で行う実習・研修を通じて適性を評価する仕組みの導入や、選考過程の改善、学校・教育委員会と教職大学院等大学との連携・協働の取組の推進、これらの点について御検討をお願いいたします。

第二に、教員が指導力を発揮できる環境を整備し、チームとしての学校の力を向上させるための方策についてであります。教員が専門職として指導力を十分に発揮できる環境を整備するとともに、複雑化・多様化している課題に対応するため、教員の勤務等の在り方や、多様な専門性を有する者の配置など、学校の組織運営の在り方等について、財政上の措置も含め、御検討をお願いいたします。

その際、頑張る教員が専門職としての自信と誇りを持って、教育指導に全力を注ぎ、その能力を伸ばしていけるような評価等の在り方、教員と教員以外の者がそれぞれ専門性を発揮し、学校の総合力を高めていくための方策、管理職の養成・研修システムや、主幹教諭、主任の在り方など学校の組織運営体制を充実するための方策、指導教諭等の養成や活用の在り方など指導体制を充実するための方策などについて御検討をお願いいたします。

以上が中心的に御審議をお願いしたい事項であります。このほかにも専門職としての教員の資質能力の向上を図るための取組や、学校組織全体の総合力の一層の向上に関し、必要な事項についての御検討をお願いいたします。